

令和元年6月16日現在

機関番号：11601

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K02228

研究課題名(和文) ノルウェーに学ぶコミュニティ音楽療法の実践モデルと音楽療法士養成プログラムの構築

研究課題名(英文) Learning from Theory and Practice of Community Music Therapy and Curriculum of Music Therapy Course in Norway

研究代表者

杉田 政夫 (SUGITA, Masao)

福島大学・人間発達文化学類・教授

研究者番号：70320934

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究はノルウェーにおけるコミュニティ音楽療法の最新動向を把握し、それに学びつつ日本のコミュニティの社会・文化的コンテクストに符合した実践を展開することを目的とした。理論研究としては同音楽療法の理論的指導者であるブリュンホルフ・スティーゲ氏らによる『コミュニティ音楽療法への招待』の翻訳作業を推進した。実践研究として、トム・ネス氏の参与観察、ベルゲンの施設、病院、刑務所の現地調査を行った。ノルウェーの音楽療法士養成大学であるベルゲン大学とノルウェー国立音楽大学のカリキュラムも調査した。国内では北名古屋市社会福祉協議会や実践グループ「マイエ」と連携し、コミュニティに根差した音楽療法実践を展開した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

近年、地域に根差した音楽療法として高い注目を集めている「コミュニティ音楽療法」は、音楽活動を通じた障害者、高齢者の社会参画、健康増進、文化的生活に寄与しつつ、コミュニティ自体の活性化にもつながっており、社会的弱者の孤立や地域文化の衰退が問題視されている日本においても重要な意義を持つ。同音楽療法の理論研究の一環として訳出したスティーゲ他『コミュニティ音楽療法への招待』は2019年6月に出版予定であり、日本での普及を一気に推し進めるであろう。またノルウェーにおける同音楽療法の理論と実践の最新動向を学会や論文等で公表してきており、日本の音楽療法に与える示唆は大きいものと思料する。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to a) grasp the theoretical and practical qualities of community music therapy (CoMT) and b) practice CoMT in accordance with the social and cultural contexts of the Kita-Nagoya community in Japan. For theoretical study, we translated the book "Invitation to community music therapy" (New York: Routledge, 2012) by Brynjulf Stige, who is considered a global expert in this area. For practical study, we observed the practice of Tom Naess, who is famous for clinical improvisation. We also visited hospitals, community centers, culture centers, and a prison in Bergen to observe the practice of CoMT. We researched on the curriculum of music therapy course of the Norwegian Academy of Music and Bergen University. Learning from theory and practice of CoMT in Norway, we tried some music therapy based on community, collaborating with the group "Maye" (belonging to the Research Center of Music in Nagoya University of Art) and the Social Welfare Council of Kita-Nagoya.

研究分野：音楽教育学

キーワード：コミュニティ音楽療法、ブリュンホルフ・スティーゲ 『コミュニティ音楽療法への招待』、トム・ネス、音楽療法士養成カリキュラム、POLYFON、マイエ、社会正義

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

#### 1. 研究開始当初の背景

「コミュニティ音楽療法」は、クライアントの持つリソースを大切に、彼ら彼女らを取りまく社会・文化的コンテクストに意識を傾注しつつ、時にその問題とも対峙することで、より良い社会の実現を企図するといった理論的特性を有する。また人権、平等、社会正義などの論点を、音楽療法をめぐる国際的議論の中心的アジェンダに据える貢献をなしており、過去 20 年間の音楽療法界において、もっとも重要なムーブメントと目されている。

研究代表者らは 2013 年より、ノルウェーの音楽療法の現地調査を開始し、コミュニティ音楽療法の理論的指導者であるブリュンホルフ・スティーゲ氏(ベルゲン大学)のインタビューや、優れた臨床即興家として国際的に知名度の高いトム・ネス氏(ノルウェー国立音楽大学)の授業観察等を行ってきた。なぜノルウェーでは、コミュニティ音楽療法がここまでの国内外での成功を収め得ているのであろうか。その実態を解明しておくことは、障害者や高齢者ら社会的弱者の孤立が指摘され、超高齢化社会の到来が目前に迫り、認知症予防等の対策が喫緊の課題となっている日本社会に重要な示唆を齎すと確信したことが、本研究の主たる動機である。

#### 2. 研究の目的

「コミュニティ音楽療法」とは、セッション室内におけるセラピストとクライアントの二者関係に限定して捉えられる傾向にあった音楽療法を、より開かれたコミュニティ活動へと転換することで、障害者、高齢者の社会参画の促進、健康の増進、文化的生活の実現を企図する新たなパラダイムである。クライアントを取り巻く社会・文化的コンテクストに注意深く目を向け、その改良にも携わることで、最終的にはコミュニティ全体の変革や活性化までを射程としているおり、社会的弱者の孤立や地域文化の衰退が問題視される日本にあってはとりわけ重要な意義を持つ。

そこで本研究では、第 1 にコミュニティ音楽療法の理論研究者であるベルゲン大学のスティーゲ氏、ノルウェー国立音楽大学のエヴェン・ルド氏やグロ・トロンダーレン氏、実践家のネス氏へのインタビューや、施設、病院等における音楽療法の現地調査を通して、先進国ノルウェーにおけるコミュニティ音楽療法のアクチュアリティを解明すること、第 2 に日本におけるコミュニティ(北名古屋)の社会・文化的コンテクストに合致した実践を試行することを目的とした。

#### 3. 研究の方法

コミュニティ音楽療法の理論については、スティーゲらによる *Invitation to Community Music Therapy* (Routledge, 2012) の翻訳出版作業を進めるとともに、氏にインタビュー調査を実施した。実践研究については、氏のコーディネートにより、ベルゲンの病院、福祉施設、文化センター、刑務所への訪問調査、参与観察を行い、分析した。またオスロでは、優れた臨床即興家として知られるトム・ネス氏の音楽療法実践を参与観察した。

ノルウェーで音楽療法士の免許を付与しているノルウェー国立音楽大学、ベルゲン大学においてインタビュー調査を実施し、最新カリキュラムについて把握した。またベルゲン大学グリーグアカデミー音楽療法部門(GAMUT)を中心に展開されている主要なプロジェクト POLYFON について、スティーゲ氏へのインタビューや資料分析を通して動向を把握した。

同時並行し、ノルウェーの事例に学びつつ、北名古屋市社会福祉協議会やグループ・マイエ(名古屋芸術大学音楽総合研究所音楽療法部門)と連携し、北名古屋コミュニティに根差した音楽療法実践を展開した。

#### 4. 研究成果

(1) コミュニティ音楽療法の理論研究としては、スティーゲ氏らによる『コミュニティ音楽療法への招待』の翻訳作業を推進し、また 2016 年、2017 年の 8 月にスティーゲ氏にインタビュー調査を実施することで、最新動向を把握した。とりわけスティーゲが提示したコミュニティ音楽療法の諸特性や、それを支える価値に関する理解を深め、実践観察に際しての分析視角とした。邦訳作業は概ね終了し、2019 年 6 月に風間書房より出版の予定である。

(2) コミュニティ音楽療法の実践動向を把握するため、2016 年、2017 年の 2 度にわたりノルウェーの現地調査を行った。ベルゲンではスティーゲ氏のコーディネートにより、FANA 文化センターでの児童福祉に焦点化した音楽療法実践(ヴィーゴ・クリューガー氏)、コミュニティ文化センター U82 で実施されたミュージック・カフェ(エリン・ソフエ氏)、ビョールグヴィン刑務所における受刑者をサポートする音楽活動(シェティル・ヒョルネヴィック氏)、USF 文化センターにおける釈放後の元受刑者らによるバンド活動を支援する実践(ラース・トースタッド氏)を訪問調査し、インタビュー、参与観察を行った。

オスロでは、優れた臨床即興家として知られるトム・ネス氏の個人セッション、及び社会に開かれたバンド活動として国際的に有名なラグナロックを参与観察し、双方における氏の療法士としての役割の変化、及びサウンドビームやタブレット、カラーランプといった巧みなテクノロジーの使用について観察、分析した。さらには研究協力者の吉田豊氏のコーディネートに

より、比較対象としてスウェーデン・ルンドの福祉施設「ストー・ブロー」における音楽活動の参与観察を行った。

これら諸成果の一部は、三重音楽療法地域推進協会での講演（2017年）、日本音楽教育学会大会での口頭発表（2017年）、日本音楽療法学会学術大会での自主シンポジウム（2018年）にて提示した。

（3）ノルウェーで音楽療法士の資格を付与している養成校はノルウェー国立音楽大学、及びベルゲン大学グリーグアカデミー音楽療法部門（GAMUT）のみである。そこで両大学の音楽療法士養成コースに関するインタビュー調査を実施し、比較することで、ノルウェーの音楽療法士養成カリキュラムの特質について考察を深めた。前者についてはエヴェン・ルード氏、グロ・トロンダーレン氏、トーネ・クヴァメ氏より、後者についてはスティエグ氏より、詳しく聞き取り調査を行った。

なおコミュニティ音楽療法の国際的成功を受けて、ノルウェーでは国のメンタルヘルスに関するガイドラインにおいて音楽療法が強く推奨されるに至り、医療認定化の機運が高まっている。それに呼応してベルゲン大学 GAMUT で展開されているプロジェクトが POLYFON（音楽療法のための知識クラスター）であり、大学での教育、研究、病院や福祉施設等の実践現場、企業や財団等のリソースをネットワーク化することで、優れた音楽療法士の数を短期間に増加させることを企図している。このプロジェクトについて調査し、論文を作成した。

（4）ノルウェーのコミュニティ音楽療法から示唆を得ながら、国内では北名古屋市を中心にコミュニティに根差した数々の音楽（療法）活動を展開した。個人セッションを徐々に社会へと開く試みを展開しているグループ「マイエ」（名古屋芸術大学音楽総合研究所音楽療法部門、主任：伊藤孝子）では、成人の参加メンバーを中心に、2016年度と2017年度に1回ずつ、地域のコミュニティ・センターにて音楽活動を行った。2017年度と2018年度には、地域のダンスグループ、クラインエント、セラピスト、学生らと共にバンドを組み、名古屋芸術大学の行事である「芸祭」にてパフォーマンスを行った。さらに2018年度には、メンバー数名が名古屋市内のライブハウスにて作品を発表する機会を持った。

北名古屋市社会福祉協議会と協働し、障害のある子ども・ない子どもの音楽的交流を目的に、2016年度は2回、2017年度、18年度は3回のイベントを持った。最終年度は成果を、名古屋芸術大学で開催されたクリスマス会にて披露した。

地域に開かれた古民家（旧加藤邸）では、近隣住民との音楽的コミュニケーションの創出を目的に、2016年度～2018年度の毎年、音楽イベントを開催した。

2018年度、韓国の障害者演奏家集団「プリズム」（主宰：チャン・エリョン氏）や三重の音楽グループ「エール」（主宰：音楽療法士、吉田豊氏）と協働し、北名古屋市の音楽ホールにてバリアフリー・コンサートを開催した。

なお、上記諸実践については、いずれもグループ「マイエ」のスタッフ、柴田朋子氏の協力を得たことを付記しておく。

（5）本研究との関連で、コミュニティ音楽療法における中心的な価値である「社会正義」について、音楽教育の視座から探究する研究、中学校の音楽科教育において被災地のコミュニティの音楽（納涼盆踊り）を教材化する研究、隣国デンマークにおけるコミュニティ音楽学校が果たしている役割、特別なニーズを有する若者の支援政策に関する研究を展開した。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計13件）

1. 杉田政夫「音楽教育哲学における『社会正義論』の地平——ポストコロナル批評、脱構築、リベラリズムに基づく議論の諸相——」日本音楽教育学会編『音楽教育学』（査読有）第48巻第1号、2018年、13-24頁。
2. 大越良子・杉田政夫「中学校音楽科教育において地域の音楽素材を教材化する試み——東日本大震災後における福島県双葉郡広野町の『納涼盆踊り』を中心に——」『福島大学総合教育研究センター紀要』（査読無）第25号、2018年、15-24頁。  
(<http://hdl.handle.net/10270/4985>)
3. 杉田政夫・懸田弘訓・佐々木繁子・川田強・大越良子「東日本大震災後の福島県浜通り地方における民俗芸能の被災と復興の状況」『福島大学地域創造』（査読無）第29巻第2号、2018年、147-164頁。( <http://hdl.handle.net/10270/4856> )
4. 伊藤孝子・杉田政夫・柴田朋子・菅田文子「音楽療法における共感とは何か——音楽療法士に対するアンケート調査の検討——」『名古屋芸術大学研究紀要』（査読無）第39巻、2018年、1-13頁。  
( [http://www.nua.ac.jp/kiyou/kiyou2018\\_2.php?file=/0002%8C%A4%8B%86%8B%97v%91%E639%8A%AA%81i%98\\_%95%B6%81j/0001%88%C9%93%A1%8DF%8Eq\\_%91%BC.pdf&name=%88%C9%93%A1%8DF%8Eq\\_%91%BC.pdf](http://www.nua.ac.jp/kiyou/kiyou2018_2.php?file=/0002%8C%A4%8B%86%8B%97v%91%E639%8A%AA%81i%98_%95%B6%81j/0001%88%C9%93%A1%8DF%8Eq_%91%BC.pdf&name=%88%C9%93%A1%8DF%8Eq_%91%BC.pdf) )

5. 杉浦悠子・伊藤孝子「大学生における悲しみの段階と音楽聴取行動の関係についての調査研究」日本音楽療法学会編『日本音楽療法学会誌』（査読有）第18巻第2号、2018年、130 - 139頁。
6. 菅田文子「西濃地域における音楽療法普及状況の調査 第5回調査の結果報告と今後に向けた課題」『大垣女子短期大学紀要』（査読無）第59号、2018年、81 - 91頁。
7. 菅田文子「音楽療法士の養成教育について」『音楽療法学会東海支部研究紀要』（査読無）第6巻、14 - 20頁。
8. 杉田政夫・伊藤孝子・青木真理「ノルウェーの音楽療法における POLYFON プロジェクト ブリュンホルフ・スティーゲ氏へのインタビュー調査を中心に」『福島大学地域創造』（査読無）第28巻第2号、2017年、107-119頁。  
(<http://hdl.handle.net/10270/4536>)
9. 小西(菅田)文子・西脇恵子・岡崎敏郎「音楽活動を取り入れたレクリエーション・ゲームを行った認知症予防教室の効果」『健康レクリエーション研究』（査読有）第13巻、2017年、45 - 49頁。

〔学会発表〕(計6件)

1. 伊藤孝子・杉田政夫・柴田朋子・青木真理・三宅博子、自主シンポジウム「ノルウェーの音楽療法から考える、日本のコミュニティにおける音楽療法の展望」第18回日本音楽療法学会学術大会、2018年9月(サンポートホール高松)。
2. 杉田政夫・伊藤孝子・菅田文子「ノルウェーにおけるコミュニティ音楽療法の動向」日本音楽教育学会第48回大会、2017年9月(愛知教育大学)。
3. Ayako Sugata, Takako Ito, Makoto Iwanaga "Clinical Improvisation: Relevance of the biological indications and subjects statements of music therapists" World Congress of Music Therapy, July 2017.(Tsukuba international conference hall).
4. 杉田政夫(コーディネータ)・懸田弘訓・佐々木繁子・川田強・大越良子、シンポジウム「福島県浜通りにおける民俗芸能の被災と復興の状況」日本音楽学会東日本支部第42回定例研究会、2016年12月(福島大学)。
5. 杉田政夫「音楽教育哲学における「社会正義」論の地平 ポストコロニアル批評、脱構築、リベラリズムに基づく議論の諸相」日本音楽教育学会第47回大会、2016年10月(横浜国立大学)。
6. 伊藤孝子・杉田政夫・柴田朋子・菅田文子「音楽療法における共感とは何か 音楽療法士に対するアンケート調査の検討」日本音楽療法学会学術大会、2016年9月(仙台国際センター)。

〔図書〕(計1件)

1. 青木真理・谷雅泰編著、杉田政夫・高橋純一・柴田千賀子・柴田卓・三浦浩喜著『転換期と向き合うデンマークの教育』ひとなる書房、2017年(全252頁)。

6. 研究組織

(1)研究分担者

伊藤 孝子 (ITO, Takako)

名古屋芸術大学・芸術学部・准教授

研究者番号：20367676

青木 真理 (AOKI, Mari)

福島大学・総合教育研究センター・教授

研究者番号：50263877

谷 雅泰 (TANI, Masayasu)

福島大学・人間発達文化学類・教授

研究者番号：80261717

菅田 文子 (SUGATA, Ayako)

大垣女子短期大学・音楽総合学科・教授

研究者番号：00369521

(2)研究協力者

柴田 朋子 (SHIBATA, Tomoko)

グループ「マイエ」(名古屋芸術大学音楽総合研究所音楽療法部門)

吉田 豊 (YOSHIDA, Yutaka)

おんがくファーム「まんどろ」

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。